



小児の腸炎の流行期 診断よりも二次感染の予防を

小児のウイルス性腸炎の代表にロタ、アデノ、ノロウイルスがあります。それぞれ症状に特徴はありますが、各個人で実際の症状は異なります。たとえば、ノロウイルスと診断されてもおう吐や下痢を1回したぐらいで元気なこともあれば、脱水症になり点滴を必要とする場合やけいれんなど重篤な症状になることもあります。

元氣そうにしても子どもは急におう吐することがあります。こういったおう吐物や排せつ物の処理中にも感染が広がります。胃腸炎のウイルスには特効薬はないこともあり、流行し始めると、収束するのを待つこととなります。これらのウイルスに対しては、迅速検査といって便のサンプルがあれば10分程度でウイルスを検出するキットがあります。しかし、迅速検査キットは確実に診断できるわけでもありません。ウイルス感染しても陰性だったり、陽性で

も症状は意外と軽かったです。手洗いや



うがいの励行はもとより、これからの胃腸風邪の流行期には子どもの毎日の健康状態を、食欲、便の回数・性状・色、などに注意して、嘔吐や発熱のある場合は早めに休ませてあげてください。感染経路は、おう吐物や排せつ物からなので、後始末のために次亜塩素酸などを使った消毒も知っておくと有用です。

小児の胃腸炎もインフルエンザウイルスのときのように迅速検査が診断に必要なことがありますが、園や学校で胃腸炎が流行している時期に重要なことは、どのウイルスかを診断することよりも二次感染を予防して、全体に感染が拡大することを少しでも軽減することだと思います。